

## 第1章 地域防災研究センターの組織・活動・設備

### 1. 地域防災研究センターの組織・活動・設備

#### 1. 本学における位置づけ（構成組織）

平成20年度までは私立大学高度化推進事業の拠点としての機能を有していたが、5年間の事業補助金交付の終了にともない、平成21年度からは大学附置研究所として存続することとなった。組織的には、研究支援本部の下に、総合技術研究所、耐震実験センター、学術フロンティア、エコ電力センターとともに所属し、研究支援本部長が所属長となった。センター長は月1回開催される研究支援本部運営委員会に出席し、センター活動について報告している。また、年に1回教授会に活動報告書を提出している。

#### 2. スタッフ構成

現在以下のスタッフで本センターの組織を構成している。センター専任教員はなく、学部との兼任教員9名と客員教授1名、ポスドク研究員2名、リサーチアシスタント1名で研究組織を構成している。また、以前ポスドク研究員として採用した1名を客員准教授、1名を客員研究員、外部組織から1名の客員研究員に参加いただいている。産学連携の立場から、清水建設㈱、㈱ファルコン、㈱エーアイシステムサービスにも参加いただいている。後者の2社とは共同研究契約を締結し、1名の共同研究員を受け入れている。

#### ○学内関係

センター長	都市環境学科教授	正木和明
学部兼任教員	建築学科教授	岡田久志
	都市環境学科教授	奥村哲夫
	都市環境学科准教授	小池則満
	建築学科教授	曾我部博之
	建築学科教授	建部謙治
	建築学科教授	中村満喜男
	都市環境学科教授	成田国朝
	経営学科准教授	小橋勉
	客員教授	地域防災研究センター
愛工大非常勤講師	工学研究科	内藤克己（清水建設株式会社名古屋支店顧問）
ポスドク研究員	工学研究科	阿部亮吾
	工学研究科	倉橋奨
リサーチアシスタント	工学研究科	王欣（博士課程2年）
客員准教授	㈱エーアイシステムサービス	西村雄一郎（元ポスドク研究員）
客員研究員	信州大学准教授	廣内大助（元ポスドク研究員）
	(独) 日本原子力研究開発機構	安江健一
事務職員	地域防災研究センター	小林有希
臨時職員	地域防災研究センター	荻野司保子

## ○学外関係

清水建設株式会社技術研究所	田村和夫、高橋郁夫、南部世紀夫
清水建設名古屋支店	田頭庄三
(株)ファルコン	古瀬雄一、落合鋭充、谷弘之
(株)エーアイシステムサービス	小松幹夫

### 3. 平成 21 年度予算

平成 21 年度の学内教研費の配分額は平成 20 年度と同額の 15,000,000 円であった。教研費には、スタッフ人件費、光熱費、建屋管理費等は含まれていない。

### 4. 平成 21 年度活動スケジュール

21 年度の活動スケジュールは以下のとおりである。

#### ○2009 年

4 月 1 日：新入生に対する防災ガイダンス。

6 月 4 日：大学 50 周年記念シンポジウム「南海トラフの巨大地震に備えた企業防災力向上の取り組み」を開催するとともに、私立大学高度化推進事業 5 年間報告会を開催。名古屋ガーデンパレス。

5 月 9 日、6 月 6 日、7 月 4 日：本山キャンパス公開講座地域防災研究センター講座「地震！その時どうなるか？」。本山キャンパス

6 月 20 日、21 日：第 8 回産学官連携推進会議に出展。京都国際会議場。

7 月 25 日：本山キャンパス公開講座地域防災研究センター講座「親子そろって地震を科学しよう」。本山キャンパス。

8 月 1 日：体験ワールド「地震を体験しよう」。地域防災研究センター

9 月 5 日：愛フェスタ 2009 に出展。愛地球博記念公園

10 月 6 日：社会人防災マイスター養成講座開講式

10 月 10 日、11 月 7 日、11 月 28 日：本山キャンパス公開講座地域防災研究センター講座「都市防災論」。本山キャンパス

10 月 29 日：第 4 回避難訓練（防災訓練）

#### ○2010 年

1 月 28 日～1 月 29 日：「日中大学フォーラム」に出展。東京国際フォーラム

3 月 17 日 21 年度研究成果報告会

### 5. 平成 21 年度事業成果

#### (1) 研究活動

基本的には、継続申請時に作成した 3 年計画を維持することとした。しかし、コンソシアムは表面上解散となり、定例打ち合わせも廃止された。これに代わり、プロジェクト申請方式が採用され、センタースタッフを中心に、他の学内教員、他機関研究者、企業関係者、等によって研究チームを形成し、予算を申請することになった。この結果、以下の 15 プロジェクトが採用された。プロジェクトの打ち合わせはチーム内で随時行い、成果は 21 年 11 月の中間報告会および 22 年 3 月の年度報告会で報告を行なった。

1. 防災キャンパス構想の予備調査（正木・内藤・成田・小池・阿部）
2. 外国人集住地域の防災教育プログラムの構築に関する研究（阿部・早川・川口）

3. 生活日誌調査データを利用した愛知工業大学学生の時間帯別被災危険度マップの作成（西村・正木・小池・倉橋）
4. GIS・GPSを用いた災害時協働のための情報共有システムの開発・利用実験（正木・小池・西村・落合）
5. 企業防災診断システムの向上に関する研究（建部・田村・高橋・青木・内藤・阿部）
6. 貯槽内液面のスロッシング現象に関する実験的研究（奥村・鈴木）
7. 東海地域の地域防災力向上を目指した企業地域連携ユニットの形成に関する研究（阿部・早川）
8. 濃尾平野観測網のAINへの統合（正木・落合）
9. 強震動予測の高精度化—震源モデルの構築とサイト特性推定の高精度化—（倉橋・入倉）
10. 活断層の直接変位被害を想定した基礎的情報整備（猿投—境川断層を対象にして）（倉橋・西村・落合・安江・廣内）
11. 高層ビルの常時微動測定と振動特性解析（正木・田頭）
12. MT法を用いた建物の耐震性能診断法の開発（岡田・曾我部）
13. AIR観測情報を用いた緊急地震速報の高度活用（正木・入倉・倉橋・西村・落合）
14. 緊急地震速報情報を利用した災害救助活動支援ロボット制御システムの構築（奥川）
15. P波最大加速度を用いた震度推定法の構築 - 巨大地震対応の緊急地震速報 - （倉橋・入倉）

## (2) その他の活動

その他以下の活動を行った（第4章を参照）

- あいぼう会
- センター見学受け入れ
- 展示会出展
- 学内出展
- 避難訓練

## 6 平成22年度計画

### (1) センターの位置づけ

20年度まではセンターはプロジェクト推進の拠点であり、その役目はプロジェクトの成果を上げることにあった。プロジェクト終了に伴い、附置研となった今後は、研究はもちろんであるが、教育の面でも大学に貢献することが求められる。また地域貢献は大学に課せられ使命であり、当センターはその重要拠点として位置づけられる。

### (2) 活動計画

22年度センターの活動目標を「企業防災を含む地域防災研究（地震災害を主対象とする）」とする。特に、この地域の特色を「日本有数の産業集積地域であるとともに東南海地震をはじめとする地震危険度地域である」と位置づけることにより、当センターにおける活動の特色を明確にする。

活動の重点項目を以下の4項目に掲げる。

1 研究活動：センター活動の中心であり、これまでの活動を継続する。一方で、研究経費の増加は望めないことから、外部資金の獲得、産学連携共同研究・奨学寄付金獲得、発明・特許の獲得、等を目指す。

- ・キーワード：緊急地震速報、強震動予測、地盤震動特性、防災カルテ、建物耐震診断、防災支援ロボット、ドクターヘリ、活断層評価、家具・設備転倒防止、防災GIS、外国人防災、BCP、構造物振動挙動、災害情

報システム、・・・

- ・リーダー（正木）、サブリーダー（奥川）

2 教育活動：本学の教育は学部教育主体であり、大学院教育の充実が叫ばれる割には成果が得られていない。当センターは大学院教育、ポストク採用により若手研究者の育成を行える機関として学内にアピールする。特に、大学院防災コース設置に向けて活動を強化する。社会人防災マイスター養成講座をセンターで推進していることは高い評価を得ている。

- ・キーワード：大学院教育、防災コース、社会人防災マイスター、若手人材育成、・・・
- ・リーダー（曾我部）、サブリーダー（岡田）

3 地域貢献活動：大学の地域貢献が求められている。当センターは、その中心的拠点として学内的に高い評価を得ているが、プロジェクト終了を機に、さらに地域貢献活動を強化する。

- ・キーワード：小学校防災教育、企業・市民防災講座、学生防災ボランティア、NPO との連携、災害弱者支援、企業防災、あいぼう会、・・・
- ・リーダー（建部）、サブリーダー（奥村）

4 防災拠点活動：大学と地域との防災連携は今後拡大する可能性があり、22年度の目玉とする。学内では、防災マニュアル作成、避難訓練実施、災害対策本部、等の活動を推進する。学外では、モリコロパーク支援を中心とする県防災局との防災協定締結、近隣消防書との連携による学生消防団の結成、等を推進する。

- ・キーワード：防災キャンパス構想、学内の耐震化、防災マニュアル、避難訓練、学生消防団、地域消防署連携、愛知県防災協定、モリコロパーク
- ・リーダー（小池）、サブリーダー（山本、内藤）

### (3) 組織・運営

①組織：学内兼任者を2名追加（下線）し、若返りを図る。必要あれば追加する。

- ・学内兼任者：正木、成田、奥村、小池、山本、岡田、建部、曾我部、奥川、小橋、（中村は退任）
- ・センター専任：入倉、倉橋、新ポストク、王、小林、荻野
- ・客員研究員：廣内、安江、西村、阿部
- ・企業関係者：田村、高橋、内藤、田頭、古瀬、落合、他

②運営：

- ・運営委員会を月1回開催
- ・事務会議を毎週開催し、リーダーも参加していただく。
- ・合同会議（センター、ファルコン、A i S S）

③その他：

- ・外部評価委員会開催年
- ・総長・学長・副学長・研究支援本部長説明会

## 2. 私立大学高度化推進事業 5 年間報告会の開催

正木和明

愛知工業大学開学 50 周年記念シンポジウム「南海トラフの巨大地震に備えた企業防災力向上の取り組み」が平成 21 年 6 月 4 日（木）13:00～18:30 に開催された。シンポジウムは学長、副学長、研究支援本部長その他学内関係者、コンソシアムに参加いただいた関係者、その他一般の方に参加をいただき、ホテル名古屋ガーデンパレスで開催された。以下にシンポジウムプログラムを示す。

愛知工業大学開学 50 周年記念シンポジウム

“南海トラフの巨大地震に備えた企業防災力向上の取り組み”

文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業産学連携研究推進事業成果報告

「地震情報活用と防災拠点形成による地域防災力向上技術開発」

日時：平成 21 年 6 月 4 日（木）13:00～16:50 講演・成果報告（3 階 葵の間）

17:00～18:30 懇親会（3 階 栄の間）

場所：ホテル名古屋ガーデンパレス（名古屋市中区錦 3 丁目 11-13）

プログラム

13:00 開会の挨拶：正木和明（愛知工業大学 プロジェクト代表）

13:05 挨拶：後藤淳（愛知工業大学 総長・理事長）

後藤泰之（愛知工業大学 学長）

祝辞：小山竜司（文部科学省 高等教育局私学部私学助成課長）

第一部 講演

13:20 基調講演：入倉孝次郎氏（愛知工業大学 客員教授）

「中越沖地震、岩手・宮城内陸地震、中国四川地震など最近の被害地震に学ぶ地震災害軽減の方策」

基調講演：山崎 登氏（NHK 解説委員）

「巨大地震に備えた企業防災」

14:50 講演：増子 宏氏（文部科学省研究開発局地震・防災研究課長）

「文部科学省における地震・防災研究に関する取り組み」

講演：池内 幸司氏（内閣府参事官 地震・火山・大規模水害対策担当）

「大規模地震に対する政府の取組」

講演：土井 恵治氏（気象庁地震火山部管理課地震情報企画官）

「緊急地震速報の提供状況と今後の展望」

第二部 プロジェクト成果報告

15:35 プロジェクト成果の概要 正木和明 (地域防災研究センター長 プロジェクト代表)

16:00 プロジェクト成果報告

「地震動予測の高度化」 倉橋 奨 (工学研究科 ポストドクトラル研究員)

「企業防災システムの構築」 西村 雄一郎 (地域防災研究センター 客員准教授)

「企業の地震防災力評価」 建部 謙治 (建築学科 教授)

「あいぼう会の活動について」 今井 則久 (あいぼう会代表)

16:50 閉会の挨拶

第三部 懇親会

17:00 懇親会



写真1 シンポジウム会場



写真2 入倉孝次郎客員教授による基調講演



写真3 山崎登NHK解説委員による基調講演

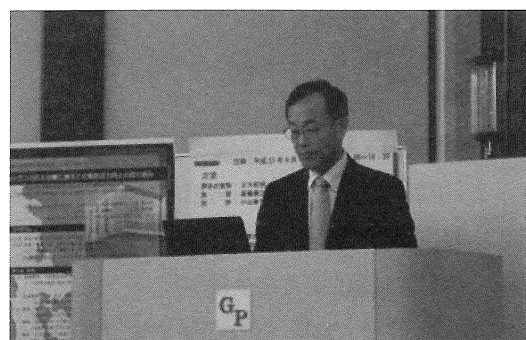


写真4 正木センター長による成果報告